俺は風俗が好きなおじさんだ。
いつもはデリヘルやピンサロを利用しているが、今日はいつもより奮発してソープランドにやってきた。
しかも俺がたまに利用するソープランドではなく
今日は若くてレベルの高い娘が多数在籍していると評判のソープを利用してみた。
普段のソープよりも割高だが、これでスッキリして日ごろの仕事の疲れを癒そう。
そう思っていたのだが……

そんな思惑とは裏腹に、衝撃的な光景が目に飛び込んできた。
早苗…
お前　なんでこんなところに居るんだ？
……
驚くことに、実の娘がここで働いていたのだ。

学校を卒業して就職が決まって
去年から一人暮らしを始めて
元気にやっているのかと思えば…
……
まさかこんなところで働いていたとは…

どうしてこんなところで働いている？
就職した会社はどうしたんだ？
……
黙ってないで答えなさい

……会社は2か月前に辞めました
2か月前だと？
この間のお盆に家に来た時にはもう辞めていたっていうのか？
ごめんなさい…
……

正直ショックで開いた口がふさがらない。
日ごろから風俗を利用していて恩恵を受けている身ではあるが
実の娘がそこで働いているというのはやっぱり別問題だ。
…それにしてもなんでソープランドなんだ？
会社を辞めたからって　まだ若いんだし
働き口くらいいくらでもあるだろう
それは……
ちゃんと答えなさい

付き合ってた彼の為にお金借りてて…その返済が苦しくて…
なんだと？サラ金から借りたっていうのか？
はい……
一体いくら借りたんだ？

ご500万です…
500万?!
なんでそんな大金を貸したりしたんだ!
彼がお店やりたいけど
開業資金が足りないって言ってて…
夢を叶えてあげたいって思って…それで…

それで その彼はどうしているんだ？！
お金を貸してから音信不通になって…
携帯もつながらなくて…全然会えなくて…
はぁ……なんてことだ…
まさか自分の娘が男に騙されて借金を抱えるとか。
世の中の汚い事もあまり教えず過保護に育てすぎたかな。死ぬほど悲しくなってきた。

…それで　今借金いくら残ってるんだ？
今はまだ利息の分しか返せてません…
彼が紹介してくれたところなんだけど金利が凄く高くて…
しかも闇金から借りているのか…
これは最初からグルになって騙されてたんだな…
会社のお給料じゃ月々の返済が無理だから…
会社を辞めてここで働くことに…

とにかく ソープで働くのはもう辞めなさい
借金に関しては家族で相談して何とかしよう
だめ…おばあちゃん達には言わないで…
きっとショックで倒れちゃう…
た 確かに……でも しかし…
これは私の責任だから
私がちゃんと責任もって返済したいの

そう言ってもな…
娘がソープで働く事を許す父親がどこに…
お父さんだって利用してるじゃない…
私こそお父さんが風俗に行ってるなんて
いくらお母さんが亡くなってても少しショックだったよ
うっ……そ…それを言われるとキツイが…
それに全部正直に話したら
お父さんが風俗行ってたことも
おばあちゃん達に知られちゃうんだよ？
う……

だから…この事はお互い秘密にしよ？
それでお父さんにはこのお仕事を容認して欲しい…
ぐっ……
早苗　いつの間にか言うようになったな…
何とか娘を辞めさせたい所だが、確かに早苗の言う通りだ。それに俺の妻はずいぶん前に亡くなったが、以来俺の母親が早苗の事を母親代わりとして本当に溺愛していたから、この事実を知ったら本気でショック死するかもしれない。

…それにね？
この仕事も最初は大変なことが多かったけど
今は少しずつやりがいを見つけてきてるから…
や　やりがいだって……？
娘がこの部屋で他の客と色々やっていることを想像してしまい、胸がずきんと痛む。

そんな事を言われても
お父さんは信じられないな…
…じゃあ 私の仕事っぷりを見てくれれば
考えなおしてくれる？
だから…これから私がいつもここで
やっている通りプレイをするから…
ん？それはどういう意味だ？
な なんだって？

お前は本気で言ってるのか？
つまりお父さんとそういう事をするって言ってるんだぞ？
…気にしないよ　だってお仕事だもん
…え？
お父さんだけど　今はお客さんでしょ？
だからどんな事情があってもちゃんとお仕事したいの

ほ 本気なのか…？早苗…
うん
そう応える娘の目は本気だった。
こういう仕事に変にまじめなところは俺に似たのだろうか。
……分かった
さすがに挿入までは無理だがそれまではいつも通りに
やってくれ それで判断するから
うん ありがとう…

それじゃあ体洗うね……
早苗は泡を自身の身体につけると俺に後ろから密着しながら自らの身体を使ってごしごしと俺を洗い始めた。
んっ…んっ…
俺の背中を上下になぞる二つの柔らかい肉。背中越しに感じるその感触と娘の時々漏れる吐息に思わず胸が高鳴ってしまう。

お父さんとこうやってお風呂入るの何年ぶりだろう…
あの頃から比べるとお父さんの背中が小さく感じちゃう
昔はよく一緒にお風呂入ってお父さんの背中流してたよね
ああ…懐かしいな…お前はいつも背中を流してくれたな
早苗…いつの間にこんなエッチな身体に…っていかんいかん！俺はなに実の娘に興奮してるんだ

落ち着け　娘相手に興奮するなど父親としていかんだろう…
…お父さんの背中
思ってたよりも綺麗だね
そ　そうか？
うぅ…お仕事だからだなんてつい勢いで言っちゃったけど
やっぱりお父さん相手だとすごく恥ずかしくて変な気分…
お父さんはどう思ってるのかな？

ヌルヌルと上下する柔らかいおっぱい。
やがて突起が当たるようになってきた。
早苗のやつ 乳首勃起してるのか？
んっ…んっ…
だ ダメだ…頭がつい
そっちばっかり意識しちまう…
俺の想いとは真逆に、徐々に股間に血が集まっていく。

くっ…勃起しちまった…くそ…
実の娘相手に何を考えているんだ俺は
あ…
お父さん勃起してる…
娘もそのことに気づいたのか
一瞬声を漏らして動きを止めた。
いや…これはだな…

男の生理現象で仕方がなくてだな…
慌てて言い訳をするがこれではあまり言い訳になっていない気がする。
う…うん…
お父さん娘なのに…やっぱり興奮してるのかな…
でも私も乳首勃ってるからきっとお父さんと同じだし…
うう…お客さんって思ってもやっぱり変に意識しちゃう…

つ 次は前を洗うね…
ついに娘からその言葉が出て思わずドキリとする。
え？前？あぁ そうだな…
あ あの…いつもやってる通りにやるだけだから ね？
あぁ……

そして早苗は俺の前でしゃがんで、前を洗い始めた。
軽く俺の太ももを洗った後、やがて中央のペニスに触れる。
さ…早苗…
こ これも…いつもやってるから…
早苗が俺の勃起したチンコを握っている…

まさか実の娘にチンコを握られるなんて。
今でも信じられない光景だ。
お父さんの勃起したオチンチン 初めて見た…
昔お風呂で見てた時は勃起してない時だったし…
結構大きくてびっくり…お客さんの中でも結構大きい…
って私 お父さんのオチンチンを
何でこんなエッチな目で見ちゃってるの？
早苗……？

早苗は何かを考えながらぼんやりとしており
先ほどから執拗に俺のオチンチンの先端に泡をつけている。
…え？
あ ごめん…くすぐったかった？
いや…それもあるけど…
そんな顔してどうしたのかなって思ってな
ううん なんでもないの…
ちょっと考え事してて
やっぱりお父さんのを触るのは嫌なんだろう？
今すぐやめても…

う　ううん　違うの…
大きいなって……あ　えっと…じゃなくて…
考えていたことが思わず口からこぼれてしまったようで
早苗は恥ずかしそうにしている。
そ　そうか？
ま　まあ娘の前で
こんなこと言うのもなんだが
結構自信はあるかもな
そ　そうなんだ…そうだよね　うん…

そして、なんとなく気まずい空気が流れる。
う…気まずい…娘とこんな話をするなんてやっぱ変な感じだな…
えっと…ちょっと驚くかもしれないけど　怒らないでね？
ん…？

早苗は自身のアソコに泡を付けて立ち上がった。
娘の美しい裸体がはっきりと眼前にさらされ
正直目を惹かれてしまうのだが……。
これはまさか……
俺の予想通り、早苗は俺の腕を掴み
その泡がついたアソコで腰を動かしながら
ごしごしと腕を洗い始めた。
…んっ い いつも
やってる事だから…
さ 早苗……!?

……
早苗がやっていることは決して間違ってはいない。
ソープでは良くある行為だ。
そのはずなのだが…
娘のアソコに触れている……！
これはさすがにまずいだろう
んっ…んんっ…
さっきからそんな事ばかり考えていて
とてもじゃないが平常心ではいられなかった。
うぅ…お客さんだと思ってもやっぱり恥ずかしい…

早苗は嫌なのか恥ずかしいのか分からないがさっきからずっと顔を背けて俺と目を合わせようとしない。
早苗……やっぱり嫌なんだろう？こんなことはもう…
んっ…んっ…違うの…ただ恥ずかしいだけ…だから…
んっ　んっ…続けさせて？

そうしているうちに、やがて早苗のアソコからヌルヌルした感触を覚える。
んっ　んんっ…
まさか…早苗濡れてるのか？

なぁ…早苗…もしかしてお前……
……
俺の言葉の意図に気づいたのか、一瞬ぴたりと止まる。
うん…濡れてるよ？
こうしてると気持ちいいから…
ほかのお客さんの時もこうだし…
……そうか

他のお客さんと聞いて胸が痛むがこうすると身体は反応してしまうという事か。
早苗　思っていた以上にエッチだったんだな…
うん…私　結構エッチだよ？だからこの仕事も続いてるわけだし…
……
まだ若いのにそんなになって…一体誰が娘をこんなエッチな娘にしたんだ

指入れてみたい？
なっ…！
ち 違うの…そうやって指を洗うのとか…あるから…
ま まあ…それは俺も知っているが…
そ そうだよねお父さん風俗行ってたんだもんね
あ…ああ…

…い　いいのか？挿れて…
一度会話が途切れたが
俺の方から再度問いかけてしまう。
うん…いいよ…

俺はその言葉を聞いて、たまらず指を挿れる。
ん　んんっ！
中は思った以上に濡れていた。
おお…濡れてる…
俺はつい興奮してしまい、中で指を動かす。
あ…あぁ…んっ　んんっ…
お　お父さん手つきいやらしい…んんっ…

早苗のそのエッチな声を聞いて、思わず手が止まる。
す　すまんっ…濡れてたからつい…
う　ううん…気にしてないから…これが普通だし…
あ　ああ……
これで綺麗になったね…泡を流して　お風呂に入ろう？

そして風呂に2人で浸かる。
一緒に風呂に入るのはかなり久しぶりなのだが…。
んっ　んっ…
風呂に入っても俺のチンコはずっと勃起したままだった。
その様子に笑みを浮かべた早苗は俺のチンコに奉仕する。
おぉ…ううっ…
もう二度と入ることはないと思っていたのに
こんな形で入るとは…しかもこんな状況だし…
早苗の行動に驚いた俺だったが
ソープランドに来れば当たり前の事なので俺は受け入れた。

口で亀頭全体を気持ち良くしながら竿をしっかりおっぱいでしごきあげる。ペニス全体が快感に包まれている状態だ。

風俗でパイズリフェラは何度も経験しているが5本の指に入る位上手だ。とても2か月とは思えない。

う…く…風呂に入っていつもこれするのか？
ううん　いつもフェラが多いかな
オチンチン大きい人にしかしないから…
そ…そうか…
風俗嬢にそう言われるといつも嬉しいのだが
これが娘となると、やっぱりなんとなく
むずがゆくなる。

あぁ…それにしてもヤバい…
んっ れろっ んっ…んっ…
早苗…そろそろヤバいかもしれん
気持ち良い責めに耐え切れず、俺は限界の合図を送る。

んっ　んっ…
いいよ…このままだして
だ　出してって…
この状況を受け入れていた俺だったが
やはり娘の前で射精をするのがなんとなく恥ずかしい。
さ　早苗…
んっ　んっ…いいよっ…
口で受け止めてあげる

早苗は全く止まらない。
それどころか更に一生懸命、俺のチンコをしゃぶっている。
……
早苗もきっと恥ずかしいだろうに ちゃんとお仕事をしている
それなのに俺はこんな風に恥ずかしがって…
これじゃ娘に失礼じゃないか…
父親だという恥は捨てて、しっかりと娘の奉仕に応えよう。
一生懸命な娘の姿を見て、そう俺の決意が固まる。

あぁ…早苗…出すぞっ…出すぞっ…
その途端、尿道奥から勢いよく精液がせりあがってくる。
んんーっ！
びゅくっ、びゅくっ、びゅくっ！
俺は勢いよく早苗の口に射精する。
凄い量…口で受け止めきれないよ…

全部出した後、早苗は亀頭についた精液を舐めとりながら恍惚とした表情を浮かべていた。
さ　早苗…すまん
ううん　それ位気持ち良くなってくれたってことだよね？良かった…
僅かに笑みを浮かべながら上目遣いでこちらを見る娘は、最高に可愛かった。

そしてその後、マットプレイに移った。
ローションでヌルヌルになった状態でゆっくりと
体を使ってプレイをしてくれる早苗。
あぁ…早苗のおっぱいや体が柔らかくてすごくいい…
俺はもう恥じらいを捨てていつもの様にプレイを楽しんでいた。
早苗もそれに応えるように一生懸命俺に密着してくる。
んっ…んっ…

どう…かな？お父さん
俺が無言で至福のひと時を味わっていると
不安になったのだろうか。娘がそう尋ねてくる。
あぁ すごく気持ちいいよ…
全身が柔らかいもので包まれて
身体だけじゃなく心まで洗われそうだ…
良かった…
ホッとする早苗。
先ほどよりも僅かばかり更に密着が強くなった気がする。

早苗の身体　本当に成長したな
いつの間にかそんなに良い身体になって…
それにおっぱいも大きくなったし
お父さん　おっぱい大きい方が
好きなんだ？
ああ…そりゃもちろん男だからね
そっか…確かに
お母さんもおっぱい大きかったもんね

ああ…それに加えて早苗は顔も可愛いからな…
この店に通い詰めるなら間違いなく
早苗を指名するだろうな…
じゃあ…今度から指名してみる？
え？
ふふ　冗談だよ
お　驚いたじゃないか　全く
早苗も冗談を言うようになったんだな

……でもね
こんなところで働いてる私が言えるような立場じゃないけど…
私としては風俗に通うのはできれば辞めて欲しいから…
どうしても行きたいなら私と…
…ってごめん　変な事言ってるよね
忘れて…
早苗…
早苗…そんなことを考えて…って当然かいくら妻が亡くなっているからとはいえ風俗に通っている父親なんていい気がしないだろう
早苗の言う通り　もう止めるべきかもしれないな

そして、いよいよ素股となった。今までになく密着するので本当にこれでいいのかと思ってしまったが、いざ始まってしまうと身を任せてしまっていた。
ふふ お父さんのオチンチン先っぽヌルヌルだね
あぁ…早苗の身体が柔らかくてつい…

早苗 すっかり最初の恥じらいを忘れて プレイに積極的になっているな
まあ行為自体はもう2か月も働いてて慣れているんだろうし
吹っ切れたのか プロ意識が強い娘なのか…
だからこそ俺もこうして興奮してしまっているのかもしれないが…
オチンチンの竿を
こうやってこすってあげるね

うっ…く…いいな　そこ…
ああ…そこは特に気持ちいいな…
ふふ…お父さん　この裏筋のところ刺激されるの好きなんだ？
そうなんだ…
カウパーがいっぱい出てきてる……

く…しかし 本当に慣れてるな…早苗…
こんなこと他のお客さんにもやってるのか？
う…うん…お客さんから触って欲しいって言われたりとかしてね…
そうか…

早苗は少し言いにくそうにしているが、肯定する。
つまりこういうテクもお客さんから教わったも同然という事だ。
こんなエッチなテクを教える親なんてどこにもいないと思うが
俺は早苗に何かを教えられた自信がないから、僅かに嫉妬が芽生えてしまった。
だからなんとなく俺も早苗に教えたくなってしまう。

…早苗　そのままそこを刺激した状態で竿をアソコで擦ってごらん？
えっ…こう？
あぁ…そうだ…いいぞ…気持ちいい…
本当に気持ちいいんだね…んっ　オチンチンがさっきよりもビクビクしてきてる…

ああ 俺は娘相手になんてことを教えているんだ…
そんなことを思いながらもどんどん増幅していく快楽には抗えず、俺はそのまま快楽に身を委ねる。
んっ…んっ…ん…❤

そしてだんだん竿を擦る早苗のワレメがヌルヌルしてきてクチュクチュといやらしい音が聞こえだす。
早苗…気持ちいいんだな…俺のチンコでそんな風になるなんて…そんな風にされたら挿れたく…
いやいや　さすがにそれはいかんだろう実の娘とセックスなんて…

…お父さん
オチンチン挿れちゃおうか？
…えっ？
娘からのいきなりの提案に、俺は素っ頓狂な声をあげてしまう。
さ　早苗何を言ってるんだ…

だって お父さんのオチンチンすごく辛そうだし
お父さんも凄く我慢してるみたいに見えてたから…
いや…まあそれは…
そうだな…否定はしないが…
でもやっぱりその一線だけはさすがに…

私も　こうして擦ってたら
だんだん欲しくなってきちゃったの…
え？
お父さんのオチンチンを見ても
濡れたりはしないって最初は思ってたけど
今こうして濡れてるのがその答えだと思う
私　お父さん相手に
気持ちよくなりたいって…思ってる…

早苗……
いやらしい女だって思った？
お父さんにこんな事言うのは凄く恥ずかしいけど
私いやらしい女なの…
だから　セックスも嫌いじゃなくて…
そうか…まあ…そうだな…

突然の娘の告白に、なんと言っていいか分からず俺は言葉を濁す。
早苗…そんな風に育っていたんだな…
まあ性の相談なんて父と娘の間ですることでもないからな…
俺はエッチでいやらしい女の子が好きだ。
だがそれが娘となると、良かったのか悪かったのかなんとも言えない気持ちになる。

だが実際に早苗を娘としてみなければ、これほどまでに理想の女の子は居ない。
胸も大きくスタイルも良く、顔も可愛くてエッチで優しく積極的だ。
そんな女の子が目の前で欲しくなったと言ってくれれば
当然挿れるの一択しかないが…
…私の気持ちは話したよ？
今度はお父さんの本音を聞きたいな

そうだ…早苗はちゃんと自分の気持ちを素直に言ってくれた
俺もしっかりと本音を話してやらなければ…
そう だな… 正直娘相手に興奮なんて…
と最初は思ったが 今は物凄く興奮してる
早苗は本当に俺好みの女性に育ったし
こんな女の子にこんな風に迫られたら…
挿れたい…と思ってしまっている…

俺の言葉を聞いて、早苗は嫌な顔を一つしない。むしろ嬉しそうに微笑んでくれた。
良かった…それじゃあ…良いよね　挿れても
私　お父さんとなら全然いいよ？
早苗……
もうだめだ　こんなことを言われたら我慢できないじゃないか…

そしていよいよゴムをつけ、このまま騎乗位の体勢で挿れてしまう。
んぁあっ…
お父さんのオチンチン大きい…❤
くっ……

熱くて狭い…これが娘のオマンコか…
ついに超えてはいけない一線を越えてしまったことに後ろめたさを感じつつもそれでも2人で決意して決めたことだと考え、迫りくる快楽に身を委ねる。
ふふ　お父さんと…つながっちゃった…❤
早苗…なんて嬉しそうな顔をしているんだ…そんな顔されたらたまらなくなるじゃないか…

それじゃあ動かすね？
早苗は軽く微笑むと、俺の上でいやらしく腰を振り始める。
あんっ　あっ…あっ…あっ❤

早苗は本当に期待していたようで、オマンコの中まで濡れていて抽挿が最初から滑らかだ。
あんっ　あんっ…お父さん…気持ちいい？
ああ…凄く気持ちいいぞ…気持ちよすぎてどうにかなってしまいそうだ…

あんっ…あんっあ…良かった…
このままイッてもいいからね？
イッてもいい、という事はつまり娘のオマンコで果ててしまっていいという事だ。
いくらゴムをつけているとはいえ、ドキリとしてしまう。
早苗…なんていやらしい娘に……だけどそんなこと言われたらたまらなくなる！

俺は早苗の動きに加勢するように、腰を動かし始める。
お父さんの方からもっ…
あんっ　あっあ❤
んあっ❤あっ　あっあ❤

俺の方からも早苗を気持ちよくしてあげたいと思ってな
あっ…あっあっ❤嬉しいっ…❤あんっ　あっあ❤
二人で夢中になって快楽を貪っているうちに、娘だからというストッパーは完全に外れ、俺は心の底からセックスを楽しんでいた。早苗の方もきっと同じ感情を抱いていることだろう。

だが、これから更に…というところで早くも射精したい感覚に襲われる。
早苗…そろそろ…
ストッパーが完全に外れた上に、こんな美少女と気持ちの良すぎるセックスをしているのだからむしろ良く持った方だと思う。

あんっあっ…あっあ❤
いいよっ このまま出して？
お父さんと一緒に気持ちよく
果てたい…❤
あぁ…早苗…一緒にイこう

早苗の言葉にこの上なく興奮した俺は脳天が突き抜けるほどの快楽に襲われながら、娘の中でついに果てた。

それと同時に奥の方でオマンコが締まる感覚があり、早苗も軽くイッたのだと悟った。

はぁ…はぁ…
お父さんのオチンチン凄くビクビクしてる…
いっぱいでちゃったんだね
ああ…気持ち良すぎてな
ふふ…嬉しい❤

早苗は気持ち良かったか？
うん…凄く気持ち良かったよ❤
最後イッちゃった…❤
早苗…

早苗のイッっちゃった発言につい興奮した俺は
早苗の中で再び硬さを取り戻していく。
…あ　お父さんのオチンチン
また大きくなってる…
もう2回出したのに
もうこんなになるなんて　すごく元気だね

ああ…それだけ興奮してるからな…
嬉しい…それじゃあ時間もあるから続きしちゃう？

そしてベッドへと移動し
今度はシックスナインを開始する。
んっ…んっ じゅるっ
んんっ❤
はぁ…はぁ…
じゅるっ じゅるっ…レロレロ…
1度つながって吹っ切れたのか、俺は完全に
娘とのプレイを楽しんでいた。
こうして彼女を気持ちよくさせたいと
必死で秘部を舐める。

んんっ❤
んっ❤ んっ❤ んっ❤
お父さんの舌が…気持ちいい…お父さん 上手だな…
私も負けてられないよ
んっ んっ…
じゅるるっ んっんっんっ…

早苗の方も先ほど湯船でパイズリフェラしていた時よりも更に積極的になっている。
早苗のテクにイキそうな気持ちを堪えながら無言の親子のスキンシップを図るべく何度も何度も互いの性器を舐めあう。
んっ…んっ…お父さん　だめっもう私…イキそう…

あぁ いいぞ…
お父さんの舌でイキなさい
お父さんもそろそろ…
んっ んんっ❤いいよっ
じゅるるっ 一緒にイキたいっ…

そうしてお互いにどちらがイクかを競うようにしながら
互いに激しくなっていく。
んっ んっ…んんっ❤
んっんんっん❤
じゅるっ じゅるるっ！
レロレロ…

そしてどちらが先か分からないくらい
同時のタイミングで、互いに絶頂する。
んんんんんっ❤❤

ふー…ふー…
イッちゃった…お父さんの前で盛大に…恥ずかしいなぁ…
でもお父さんもイッてくれたしおあいこだよね
んっ…んぐっ　んっ…

早苗…こんな風に潮吹いたりするんだな…
それに俺の精液を飲み干して…なんていやらしい娘に育ったんだ
既に3回出したばかりだというのに
そんな娘がたまらなくエッチで、早くも硬くなっていく。
んっ…お父さんのオチンチン
また大きくなってきてる…
本当にすごいね…
こんなのお客さんにもなかなかいないよ…

いつもなら3回も出したら限界なんだけどな…
早苗に興奮してるからだと思う…
そうなんだ…嬉しいな
…お父さん　まだ元気ならこのまま後ろから挿れて欲しいな

このままって…
ゴムはつけないのか？
お店でもスキンはつけるように
言われてるんだろう？
うん…そうだけど　ダメかな？

こんなこと普段絶対しないけど
お父さんにだけは特別に…
私　お父さんを直に感じたいの…
早苗……
俺だけに特別に生でしたいという娘の提案にもはや受け入れる以外の選択肢はなかった。

早苗…挿れるぞ
俺はこれ以上ないくらいの興奮度で、娘の膣内へと後ろから生挿入する。
んあぁっ…❤

入ったぞ…
さっきイッたのでヌルヌルだし
ゴムつけてた時よりも凄く
早苗の中を感じるな…
私もお父さんのオチンチンを
さっきよりも感じてる…❤

早苗…！
俺は娘の事をこれ以上なくいとおしく思い、腰を振っていく。
あんっ❤あっあ❤
あぁっ　あっあっあ❤
最初は軽く抽挿しようとも考えていたがあまりの興奮と気持ち良さに腰が止まらなかった。

お父さん 凄い…奥まで…
あんっあっあ❤
こんなのイッちゃうよ…!
奥を突くたびに早苗のオマンコがビクビクと締まる。
他でもない俺のチンコがそうさせているのだと思うと
たまらなく興奮した。
あんっ あっあっ
あぁっ あんっあ❤

はぁ…はぁ…早苗…早苗…
そしていよいよ限界が訪れようとしていたので最後は正常位で向かい合うようにしてプレイする。
あんっ あっ あんっあっあ❤ あぁっ❤

早苗…こんなに可愛い顔をして喘いで…愛おしい 早苗が愛おしい…
くっ…早苗…くっ う…
あんっ あっあっあ❤
あぁあっ あっあっあ❤

どこか妻の面影を感じるこの娘相手に完全に俺は欲情してしまい気が付けばキスをしていた。
んっ…んんっ
んっ…んっ
ちゅっ…
んんっ…んっ…♥

…はぁ お父さんとキスまでしちゃった…
すまん 嫌だったか？
ううん 嬉しい…
嬉しい？

うん 私…お父さんのこと好きだから…
親子でキスするなんてって思うけど素直にお父さんから求められて嬉しいって思えたの…
早苗の言葉に本気で彼女を愛してしまいたいという気持ちに襲われてしまう。きっと今のセックスで少し感覚が麻痺してしまっているのだと思うがそれでもこのまま彼女の中にすべてをぶちまけたいとさえ思ってしまった。

そんな感情を押さえつけるように、再び彼女と口づけを交わす。
んんっ❤んっ…んっ…んっ…
今度は早苗の方からも積極的にキスをしてくれた。
しかも今度は舌と舌を絡めあうディープキスをする。

…はぁ　あんっ…あっあ…
お父さん　このまま中に出してっ❤
え…いや　それはさすがに…
お願いっ…
私いまお父さんを全部受け止めたいの…
あんっあっあ❤

早苗：分かった
万が一の時は責任とるからな
俺はそのまま中出しを決めるべく、最後のラストスパートをかける。
興奮で完全に理性が吹っ飛んでいるのもあるが、今は娘ではなく
完全に一人の女性として彼女と最後までしたいと思っている。

あぁ…早苗　もう出すぞっ！
あんっあっあ❤
うんパパっ　きてっ…！
私もイクからっ！
！？早苗……

くっ…あ　イクッ…！
んあああぁぁぁぁぁぁっ❤❤❤
びゅる！びゅるるっ！びゅるっ！
早苗の久しぶりの俺への呼称にドキリとしながら、暴発するように彼女の子宮へとありったけの精液を吐き出していく。

はぁ…はぁ…
すごい…奥が熱い…ビクビクしてる…
早苗…凄く気持ちよかったぞ…
うん…私も凄く気持ち良かったよ…
お父さん…

そして早苗はお父さんと呼んだ。
少し言いにくそうにしたのは少しどちらで呼ぼうか考えたからかもしれない。
…別に　パパでもいいんだぞ？
昔を思い出して嬉しかった
う…うん
ならたまに…呼んじゃおうかな…

かなり思い切って俺をそう呼んだのだろう。
そう返事をする早苗は更に顔を赤らめていた。
…それで　どうだったかな？
私の仕事ぶりは…
ん？
ああ…そういえば　そうだったな

夢中になっていて忘れていたが、そもそも始めたきっかけは
自分の仕事ぶりを見て欲しいというものだった。
客としての立場から考えたら
仕事ぶりは凄く伝わったし
合格と言いたいところだけど……
やっぱり今でも早苗にはこんなこと
して欲しくないって思ってる
…うん　そうだよね…

…でも早苗が頑張る気持ちはしっかり応援したい
…え？
だから俺はこれから早苗の常連客として足を運ぶことにする

そうだな…ずっとは難しいが
できるだけここに足を運ぶから
それでちゃんと借金を返せたら
すぐにやめて欲しい
俺もそれで完全に
風俗はやめるから…
うん…ありがとう…パパ…

そうして早苗はどこか懐かしい顔で微笑んだ。
その後も次の予約が入っているギリギリまで延長し、娘と昔話をしたりと
2人だけの貴重な時間を楽しんだ…。

そしてそれから約半年後……
んっ…んっ…んっ…
パパ…んっ　んっ❤
あぁ…気持ちいい…
本当に上手だな　早苗は…
俺は風俗へ通う時間の全てを早苗とのプレイに費やした。

これまでに何度ここへ足を運んだか分からない。
もはやこのお店では一番の常連となっている。
んっ…んっ…ん…
そして何度も通ううちに、早苗とは様々なプレイをするようになった。
今しているこのスケベ椅子フェラもその一つだ。
じゅるっ んんっ
じゅる んっ…んんっ…ん…

早苗はこのお店で不動のナンバー1になっていた。
その大半は俺の影響によるものが大きいが
例えそうじゃなくても同じ結果だっただろう。
彼女はこのお店…いや、全国規模で比べても
ナンバー1になれる位のルックスだ。
それは人気にならないはずがない。
現にいくら常連客として俺が優遇されているとはいえ
予約が取り辛くなっている感は否めない。
既に彼女だけは一見さんお断りの状態になっている位だ。

だが早苗はなるべく俺の予定に合わせて出勤をしてくれるのでそれでもしっかり会える時に会えているが。
あぁ…そろそろ早苗の中に挿れたくなってきた…
早苗と一緒にイキたい
うん…いいよ…❤私もパパのオチンチンを舐めてて濡れたから…欲しい❤

キスをしながらプレイマットに寝転がり、後ろから突きまくる。
さすがに危険日の時はゴムだが、それ以外ではもう俺たちの間でゴムをつけないことは当り前になってしまっていた。
早苗…んっ　んっん……
パパっ…パパっ
あぁっ　あっあっあ❤
あんっ…あっあ❤
んっ　ちゅっ…
あんっ　あっあ❤

本当はお店で禁止されているし、早苗も他の客には絶対にゴムをつけるから、生でしているのは俺だけだ。
パパっ…あんっ　あっあ❤
そこっ　気持ちいいっ…あんっあっあ❤
ちなみに生は早苗の方から提案してきた。
それだけ俺を特別扱いしてくれているという事だ。

あれから早苗は俺の事を少しずつパパと呼ぶようになった。
最初はたまにだったのだが、今では家族と会う時以外は殆どの時間をパパと呼んでくれる。
そしてこの半年間で俺と早苗は更に距離が縮まった。
出勤していないときだって、普通に会って一緒に出掛けたりするほど仲が良くなっていた。

年齢差からしてさすがに恋人には見えないと思うがそれさえなければ恋人にしか見えない振る舞いをしていることだろう。
ちなみに借金だが、ようやく返せる目途が立ってきた。残りの借金を考えると、後1か月くらいといったところだろう。
プレイを終えて帰る際、娘を待っている客を見るたびに心が締め付けられる思いでいたから、俺としては嬉しい限りだ。

早苗も内心ではもう他の客としたくない様子だったがそこはちゃんと一度決めたことは最後までやり切るという彼女の信念があるのだろう。
もしかするともう二度とこんなことをしないという自分への戒めでもあるのかもしれない。
だから俺もしっかりと最後までやり切る彼女を応援したいと、自分の気持ちを殺して応援した。

あっ…あっ…
あっあ…❤パパっ…
だがそれでも俺が彼女の一番でありたいと思う気持ちは
変わらず、それがプレイに現れている。
こうして生挿入を受け入れているのもその気持ちの表れだ。
私 このお店辞めても
パパとこうして過ごしたい…❤
ああ…俺もだ
ずっとこうしていような
早苗 好きだぞ…

俺達には近頃、親子関係を超えた恋人のような関係が完全に芽生えていた。このまま行くと、本当に早苗と恋人になってしまうかもしれない。

天国に居る妻が見たらきっと怒るかもしれないな…でもそれくらい娘が大好きな気持ちが抑えられないんだ…

早苗っ　イクぞっ！
うんっ　今日は中にっ…
もし今俺たちの間に子供ができてしまっても
俺は受け入れてしまうだろう。
それくらい今の彼女が愛おしい。
あぁぁぁぁっ❤❤❤
END

出産当日……
んあああっ　あああっ…
痛むのか？早苗
うん…痛い…あぁ　あぁっ…
早苗は先ほどから陣痛が来ていて凄く辛そうにしている。

俺が変わってやれたらな…
すまんな　辛い思いをさせて
ううん　いまからパパとの赤ちゃんが
産めるんだって思ったら　頑張れるから

早苗…
そんな嬉しい言葉を俺に投げかけてくれて
俺はまだ赤ちゃんが生まれてもいないのに今から感極まりそうになる。

そして突然早苗が苦痛に喘いだと思うと、勢いよく破水した。
んあぁっ！あああぁっ！

はぁ…はぁ…あぁっ　あぁぁぁっ！
破水か…？大丈夫か？早苗…
大丈夫じゃ　ないかもっ…
痛い　痛いよ…あぁっ　あぁぁぁっ！

早苗…！
俺はその様子にうろたえそうになる。
だめだ…父親である俺がそんな風にうろたえてちゃいけないだろう
早苗が頑張っているのだから…

んあああっ！ああああっ！
そうして早苗はお腹に力を入れて、一生懸命赤ちゃんを産んでいるとやがて頭と思われる皮膚がワレメから姿を現す。
早苗：赤ちゃんがでてきたぞ…！
頑張れ　もう少しだ！

あぁぁあっ！あああああっ！
早苗の声がますます大きくなる。
そこで完全に詰まったようで、かなり辛そうにしている。
早苗……！頑張れ…！
くそ…俺にできることはないのか…

俺は何とか助けなければと思い、手袋をはめて赤ちゃんをゆっくりと引っ張る。
頑張れ…頑張れ…
もう少しだ…息を整えて…！
ひっ　ひっ　ふー…ひっ　ひっ　ふー…
そしてつっかえが取れて動き出し……

あああぁぁぁっ❤❤
おぎゃあ！おぎゃあ！

う 産まれたぞ…早苗！
俺たちの赤ん坊だ！
はぁ…はぁ…う まれた…
良かった……
早苗は心の底から安堵し、喜びの表情を見せ、涙をこぼしている。

早苗…本当によく頑張ったな
俺もそこで涙腺が崩壊し、涙を流す。
うん…パパが居たから頑張れたんだよ？
本当にありがとう

ああ…早苗は本当に立派で俺の自慢の娘だよ
…お父さんは年齢的に先に逝くことになるけど早苗がちゃんと幸せになれるように頑張るからな

うん ありがとう…
パパとは一日でも長く一緒に居たいから…
私も頑張るね
だから
パパ❤
一緒に幸せになろうね？

そうして早苗は微笑んだ。その笑顔を見て
俺は絶対にこの子を幸せにしてやるぞと心に決めたのだった。
父の子END

（おまけ）もしも父親と娘がソープで会わなかった場合……
はぁ…はぁ…うぅ　あぁ　あぁあっ…
うん…痛い…痛い…
早苗…痛むのか？

私は今、陣痛に苦しんでいた。
ありがたいことに私はお店で人気嬢となり、沢山のお客さんを相手にできた。
それでも借金は中々返せず、収入をもっと増やして何とか早く返したいと思ってお店に内緒でNNでしてたりしたのだが、避妊に失敗してしまったようだ。

生で中出しさせていた相手は沢山いるので、誰が父親かは分からない。
妊娠が分かった時はもちろん中絶を考えたが
お腹の赤ちゃんに罪はないし、思い切って産むことを決意した。
もちろん家族には、その後妊娠しているという事実を報告した。

だけど何とか無事に借金を返す事ができたものの、家族には借金を背負ってソープで働いていたという事実は内緒にしたかったので報告の時はソープで働いていることを隠し、誰の子か分からないとだけ告げた。
おばあちゃんは気を失いそうになりながらも私がそれで覚悟を決めたなら…と何とか納得してくれた。

でもお父さんは、相手の男を探して何とか責任を取らせろとか
DNA鑑定しろとか言って物凄く怒ってしまって収集が付かなかった。
なのでやむなくお父さんだけにソープで働いていた事実を告げると
凄く怒られてしまい、なんでもっと早く相談してくれなかったんだと
本気で涙された。

私は本当に親不孝者だと思って凄く反省してお父さんに涙して謝った。
だけどお父さんはそれでも私の事を守ってくれて
こうして今、出産にも立ち会ってくれている。
はぁ…早苗がまさか…ソープで働いていたとはな…
俺はそんなことを考えながら早苗の苦痛に喘ぐ様子を見つめていた。

俺も実際のところ、内緒でソープに行っていたこともあったので早苗には怒ったものの、必要以上に責めることはできなかった。
聞くところによると、俺が最後にソープに行った時期と早苗が働きだした時期と被っていたし、その働いていたというお店も俺が行ったことのある店だった。

その時の俺は、別のお店に行ってしまったのだが、フリーで入った為に正直ハズレに当たってしまい、その事が原因でしばらくソープを控えていた。
でももしその時に俺が早苗が働いている店を選んでいてそこで早苗とバッタリ会っていれば違ったのだろうかと思うと胸が締め付けられる思いになってしまった。

そして突然早苗が苦痛に喘いだと思うと、勢いよく破水した。
んあぁっ！あああぁっ！

はぁ…はぁ…あぁっ　あぁぁぁっ！
早苗…大丈夫か？破水が…
ううっ　うん…
痛い…痛いっ…あぁっ　あぁぁぁっ！

早苗…！
俺はその様子にうろたえそうになる。
ソープで生中出しした経験のある俺が言うのはお門違いなのは分かっているのだが、早苗にこんな痛い思いをさせた相手は本気で許せないと心から思ってしまう。

んあああっ！ああああっ！
そうして早苗はお腹に力を入れて、一生懸命赤ちゃんを産んでいるとやがて頭と思われる皮膚がワレメから姿を現す。

早苗…赤ちゃんがでてきたぞ…！
もう少しだ…！もう少し…！
あぁぁあっ！あああああっ！
早苗の声がますます大きくなる。
そこで完全に詰まったようで、かなり辛そうにしている。

早苗……！頑張れ…！
もう少しだ…息を整えて…！
ひっ ひっ ふー…ひっ ひっ ふー…
そしてしばらく本当に辛い時間が流れ、冷や汗をかきながらも見守っていると…

あああぁぁぁっ❤❤
おぎゃあ！おぎゃあ！

産まれた……
そうして元気な産声をあげながら、赤ん坊がズルリと姿を現した。
この子が俺の孫か……
でも誰が父親かは分からないんだよな
だけど間違いなく早苗の子だし……俺の孫だ

そんな複雑な思いを頑張って隠しながら、俺は早苗に微笑みかける。
早苗…辛い中 よく頑張ったな
うん…ありがとう お父さん……

早苗は俺のそんな複雑な気持ちを察してしまったのか
苦笑いを浮かべながら俺にお礼を言う。
自身でまいてしまった種とはいえ、早苗はずっと誰にも相談できずに辛かっただろう。
そんな早苗を支えてやれなかったことが本当に悔やまれる。

早苗…これからお父さんがお前を支えてあげるからな
辛いことがあったらいつでもお父さんに相談するんだぞ？
ありがとう…
本当にごめんなさい…お父さんにいっぱい心配をかけて…

いいさ　例えお前がどんなことをしても
一生俺の大事な娘な事に変わりはないからな
俺はずっと早苗の味方だ
だからこれから母親として頑張りなさい

お父さん……
本当にありがとう
私 頑張るね
客の子END